

平成30年度 硬式テニス部

～仲間の1勝はみんなの1勝～



高校総体 男子団体 ベスト4

高校選手権 女子団体 6位
新人戦 女子団体 5位

【部員】

男子

<112期生> 森下柊治（安乗）尾間孝輝（文岡）奥田裕登、作野成紀（倉田山）玉山智貴（厚生）
福田竜児（五十鈴）中村太一（北浜）

<113期生> 東山雅幸（文岡）藤田和志（多気）奥野 蓮、山口 陽、青山航大（港）

<114期生> 権藤優真（厚生）濱口幹太（五十鈴）長谷川滉哉（豊浜）桑島真尋、池田聖也（加茂）
水谷光来、松本空也（浜島）

女子

<112期生> 濱口 京佳（鳥羽東）西岡 玲奈（御園）

<113期生> 山本栞菜（安乗）塩田菜々美（東海）島津萌乃香、谷川原奏美（文岡）高尾桃音（飯南）
森 愛夕香（小俣）上谷和可、中村あかね、山口璃々、森脇瑞貴（北浜）

<114期生> 奥田 葉（倉田山）奥野こはる（厚生）藤原心愛（港）北岡愛梨（二見）西山藍華（玉城）
小林素子（鳥羽東）中村梨乃（文岡）

【活動実績】

<男子>

○ 高校総体

男子団体戦 4位 (シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

2回戦 対 飯南高校 3-0 勝利

3回戦 対 松阪工業高校 3-0 勝利

4回戦 対 津西高校 2-1 勝利

準決勝 対 四日市工業高校 0-3 敗退

3位決定戦 対 津田学園高校 0-2 敗退（打ち切り）

男子シングルス

ベスト64 作野成紀、東山雅幸、藤田和志

男子ダブルス

ベスト32 作野・森下組

○ 高校選手権

男子団体戦 2回戦敗退 (シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

2回戦 対 四日市四郷高校 1-2敗退

男子シングルス（3年生の部）

ベスト16 作野成紀

男子シングルス（1, 2年生の部）

ベスト32 東山雅幸

ベスト64 奥野 蓮

○ 新人戦

男子団体戦 1回戦敗退 (シングルス3本、ダブルス2本での対戦)

1回戦 対 晓高校 1-4敗退

男子シングルス

ベスト32 東山雅幸

ベスト64 藤田和志、山口 陽

男子ダブルス

ベスト32 東山・藤田組、山口・奥野組

<女子>

○ 高校総体

女子団体戦 2回戦敗退 (シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

2回戦 対 名張高校 1-2敗退

女子シングルス

ベスト64 西岡玲奈、山本栄菜、山口璃々、島津萌乃香、中村あかね、塩田菜々美

女子ダブルス

ベスト32 西岡・塩田組、森・山口組、山本・島津組

○ 高校選手権

女子団体戦 6位入賞 (シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

1回戦 対 名張高校 3-0勝利

2回戦 対 津西高校 3-0勝利

3回戦 対 津商業高校 0-2敗退

5~8位決定戦 対 名張青峰高校 2-1勝利

5, 6位決定戦 対 桑名西高校 1-2敗退

女子シングルス（3年生の部）

ベスト16 西岡玲奈

女子シングルス（1, 2年生の部）

ベスト32 島津萌乃香

ベスト64 山本栞菜、山口璃々、中村あかね、塩田菜々美、森 愛夕香
高尾桃音、小林素子、上谷和可

○ 新人戦

女子団体戦 5 位入賞 (シングルス3本、ダブルス2本での対戦)

1回戦 対 白子高校 5-0 勝利

2回戦 対 四日市南高校 4-1 勝利

3回戦 対 四日市高校 0-3 敗退

5~8位決定戦 対 名張青峰高校 3-2 勝利

5, 6位決定戦 対 セントヨゼフ 3-0 勝利 (打ち切り)

女子シングルス

ベスト32 山本栞菜

ベスト64 森脇瑞貴、小林素子、森 愛夕香、山口璃々、島津萌乃香、中村あかね
奥田 葉

女子ダブルス

ベスト16 森・山口組、奥田・上谷組

ベスト32 山本・島津組、小林・奥野組

～各大会・思い出のヒトコマ～

◎新入生部登録の日



◎高校総体(5月)





◎夏休み・夏合宿



◎高校選手権（8月）



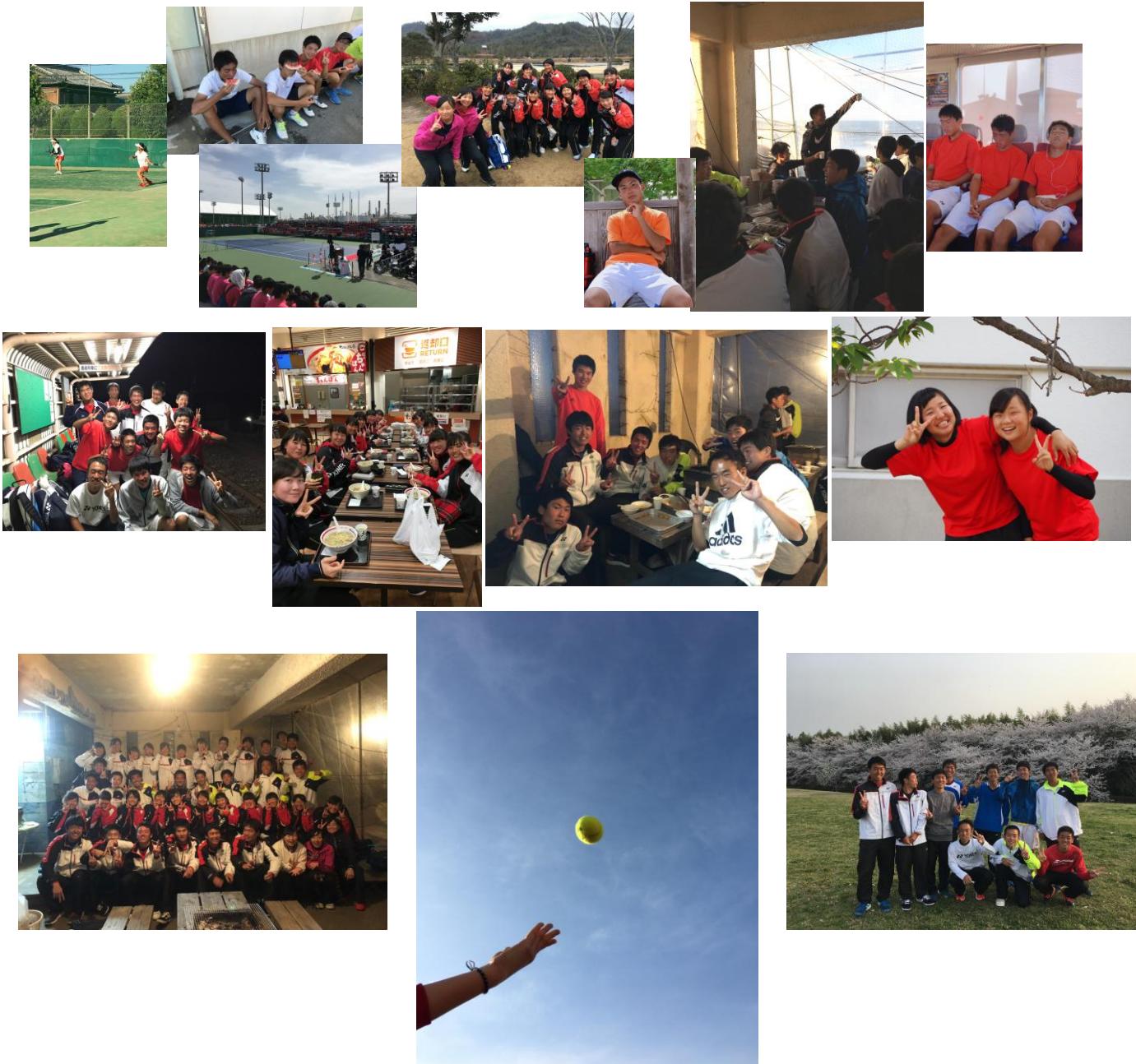


◎新人戦（9月）



◎ あれこれ





【概要】

昨年度、男子新人戦ベスト4、女子ベスト8の勢いそのままに、30年度もさらなる飛躍を誓いスタートしました。またまた、個性豊かな男子7名と、真面目で頑張り屋な女子7名が入部してくれました。2年生男子5名、女子11名、3年男子7名、女子2名、39名がチーム一丸となり練習に励んでいます。

男子は前大会の新人戦では、ダブルス2本、シングルス3本と本数が多いため、チームの層の厚さで勝ち抜くことが出来ました。しかし、総体団体戦は、ダブルス1本、シングルス2本で戦うため一人一人の負担が大きくなっています。初戦から簡単な試合ではなく、すべての勝敗がどちらに転ぶかわからない試合の連続でした。特に3回戦、準々決勝のシングルスでは、2年生でシングルスを任せられた藤田、東山が技術では他校には到底及ばないとわかっていたため、相手の強打を返し続け、目の前の一本一本を「この一球を諦めない」という気合いで戦い、応援は「1人の1勝は、みんなの1勝」というチームスローガンにふさわしく一体となった戦いとなりました。2時間に迫る接戦を勝利に結び付け、ベスト4に導いてくれました。

女子の夏の高校選手権は、チームを支えてきた最後の大会となる2人の3年生のためにあるような大会となりました。一旦は引退を考えた2人でしたが、後輩のためにともう一度コートに戻ってきてくれました。団体戦での2人のダブルスは役割分担がしっかりとされ、信頼の上に立った勇気ある1ショット、1スマッシュでした。一緒に団体戦の舞台に立った2年生に、団体戦の厳しさと同時に、楽しさも最後に伝えていってくれました。2人の活躍で、シード権を取り戻し、6位入賞を果たすことが出来ました。

「さあ、出番だ」と、これまで控えに甘んじていた2年生を中心に新人戦を戦いました。男子は夏の高校選手権の屈辱を晴らそうと臨んだ大会でしたが、強豪の暁高校に破れ、不完全燃焼の大会となりました。男子の分もと女子は勝ち進み、ベスト4をかけ四日市高校に挑みました。しかし、その壁は予想以上に高く、全く歯が立たず敗れてしまいました。気持ちを切り替え臨んだ順位決定戦では、2-2の接戦になり最後のシングルスに運命が託されました。これまで直向きに、コツコツと努力を重ねてきた2年中村が、長いラリーの連続の厳しい試合に勝利してくれました。その勢いに乗り、5位入賞を果たすことができました。

天国と地獄を味わった男子の30年度。順位を着実に上げることが出来た女子。男子のキャプテン東山が男女ともにチームを引っ張り、雪辱を果たしたいという思いで、北風吹く寒い冬も熱く熱く努力を重ねると思います。きっときっと、その成果が実る春になることを期待しています。

～ 中学生の皆さんへ～



個人競技に思われるテニスですが、一人一人がバラバラでは、個人の勝利も団体戦の勝利も勝ち取ることができません。部員みんなに対する思いやり、支えてくださる家族に対する感謝の気持ちをテニスを通じ育ててほしいと思います。

練習が嫌になって、テニスをしていても上達しません。テニスコートに行くことが楽しみで、みんなと練習している時間が、毎日の内で一番充実した時間になるよう顧問・先輩たちは頑張っていきます。

山商テニス部で一緒に青春しましょう！

(設備)

山商のテニスコートはなんと6面もあります。ですから、入部当初からボールを使っての練習に参加できます。県下でも珍しいハードコートが2面、クレーコートが4面あります。さらには、全コート照明も完備されています。日照時間が短くなる秋、冬にかけてもテニスコートを使って練習ができます。

(活動内容)

練習時間 平日 15：50～18：30

休日 8：30～12：30

※ 練習試合・大会の場合が多いです。

※ 週に1度の休日は設けてあります。